

第2回バス情報の静的・動的データ利活用検討会 議事概要

日時：平成31年3月19日(火) 14:00～16:00

場所：中央合同庁舎2号館1階 共用会議室5

出席者：伊藤昌毅座長、伊藤浩之、井上佳国、櫻井浩司、塩路久人、篠原雄大、高野孝一、田崎聰、丹賀浩太郎、中村嘉明、西沢明、藤井俊宏、別所正博、山本直樹、ほか国土交通省関係課

(敬称略)

<第2回検討会での合意事項>

【承認内容】

○検討成果の取扱い

- ・今年度の成果である資料2～7について、一部修正のうえ国交省が年度内にプレスリリースして公開する。
- ・本日の検討会の指摘事項を反映させた完成版は座長に一任
- ・資料の公開方法は国交省 HP に PDF 版を掲載

<委員の主な意見>

【公表資料の構成と公表方法について】

○全体の資料構成

- ・誰向けの資料かがわかりやすくなっていて利用しやすいと思われる
- ・資料の公開方法は国交省 HP に PDF 版を掲載、継続的に技術検討可能なよう技術者向けには別途 Markdown 形式のものを公開予定(公開先は未定)
- ・PDF には国交省クレジットを付加する
- ・公開資料は PDF 形式でも利用しやすいよう体裁を整える
- ・Markdown 形式のものは、エンジニア向けに初版からの変更点がわかるログを追加すると共に、発行日付等を付加して文書体系のバージョン管理を可能にする

【静的データフォーマットについて】(資料7)

- 経路検索を可能とするには掲載料がかかると誤解している交通事業者が多い。一般的な経路検索事業者への提供は無料であることを仕様書に記載してほしい。
- 項目に追加した『のりば情報』(資料7:P5)の国内 CP 向け区分は「不要」ではなく「任意」なので修正。
- 同じ名称かつ同じ読み仮名のバス停の区別方法については、交通事業者側は正式名称のみ作成し、経路検索事業者等のサービス提供者側でカッコ内に事業者名や経路名を入れるようにした方が望ましい。
- 交通事業者が作成したフォーマットは CP の提供するサービス内容に合わない場合があることを理解してほしい。(例えば、予約が必要なデマンド型バスを掲載していない CP もある)
- 解説書(初版)のフォーマット提出先に公共交通オープンデータ協議会が経路検索事業者と並

列されており、交通事業者から経路検索事業者と誤解されることがある。協議会の役割について交通事業者が誤解しない表現を追記してほしい。

【動的データフォーマットについて】(資料6)

- 静的データフォーマットは GTFS に日本独自の必要情報を追加して GTFS-JP を定めたが、動的データフォーマットは GTFS リアルタイムをそのまま活用する。
- フォーマット利用に当たっての詳細な設定について、推奨する内容をガイドラインとして整理。
- 遅延時間の設定方法(資料6:P2)について、遅延時間の丸め処理の表現が作成者側は「禁止」で利用者側は「努力目標」となっており温度差がある。データの利活用で考慮すべき事項の話ではないか。

→「禁止」ではなく「今後のデータ利活用を考慮すると行わないことが望ましい」等の表現に直す。
また、『利用方法』は『利用する際の留意点』に変更し、データを利用する側にとってわかりやすい表現にする

【データの検証ツールについて】(資料4)

- 今後、フォーマットの普及にはデータの質の向上が求められてくる。交通事業者がいきなり 100 点満点のデータを作成することはできないと思う。CP 側での取込基準がわかるチェックツールが公開されていると普及につながる。
- ヴァル研究所のチェックツールについては、本日は間に合わなかったが、まもなく一般公開する予定である。＜補足情報:3/20 公開済み＞
- 「その筋屋」(無償作成支援ツール)では、標準と甘口(緩いエラーチェック)のチェックツールを標準装備しているが、今後辛口(厳しいエラーチェック)を追加していくようにする。

【その他】

- 標準的なバス情報フォーマットが整備され、中小のバス事業者が紙ベースからデータベース化への底上げが図られている効果を感じている。リアルタイムの情報やオープン化は、既にデータ化している大手の交通事業者もいる中でまた別の問題とはなるが、課題を含め、バス業界全体でデータの底上げが図られていくことに期待する。
- フォーマットの共通化によって事業者間の協調がしやすくなり、エリアでバスの利便性向上に生かされればよい。
- 現在の動的データ(GTFS リアルタイム)では車両と時刻表のデータを紐付ける必要があるが、災害時には定まったダイヤがない場合が多く、今後の課題。
- 全国でバス情報を充実していくためには、標準的なバス情報フォーマットの普及啓発活動が重要。都道府県や協議会を含め幅広く働きかけていく必要がある。

以 上